

令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

P T A名	静岡県立静岡聾学校 P T A
学 校 名	静岡県立静岡聴覚特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	25人

1. 使用状況

寄贈物品名	平太鼓(3尺)高座付、締太鼓 立台座付
使用学年及び人数	中学部1、2、3年生 9人
使用頻度	毎週1回(通年)、行事
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「全国聾学校合奏コンクール」での入賞を目標にして、毎週1時間練習に取り組んでいる。 ・学校行事の「学習発表会」や「太鼓たたき納め式」、「地域の方との交流会」に向けて、定期練習に加えて、発表会の2週間前から毎朝10分間の練習に取り組んでいる。
物品の使用による変化や効果	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の聴こえの状態は様々である。太鼓の授業を楽しみにしている生徒が多い一方、ほとんど聴こえなかったり、リズムを合わせることが難しかったりして、苦手意識をもってる生徒もいるが、自分の目標に向けて積極的に取り組む姿が見られている。 ・1年生の6人は締太鼓を担当し、同じリズムを叩き続ける地打ちや異なるリズムを組み合わせて取り組んでいる。始めは、周りのリズムに気を取られてしまったが、繰り返し練習することで、正しいリズムを覚え、リズムがどのように組み合わせられているのか分かるようになった。 ・昨年度よりも人数が多くなったため、ダイナミックの幅を広げたり、様々なリズムを組み合わせたりして、多彩な表現ができるようになってきた。
今後の活用の見通しや課題	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的実施する発表会に向けて、今後も地道に練習に取り組んでいく。 ・12月は地域の方々に披露をする予定である。
その他希望や所感など	<ul style="list-style-type: none"> ・『静岡太鼓』は、本校中学部の伝統となっています。幼稚部や小学部の幼児児童が中学部の太鼓の発表を鑑賞したときに、憧れの気持ちをもてるようにしていきたいと考えています。また、太鼓は高価なため学校予算で購入することが難しい中、太鼓を寄贈していただき大変有難く思っています。今後も太鼓を大切に扱い、『静岡太鼓』を継承していきます。

2. 活用の様子

1年生は簡単なリズム練習、ばちの持ち方や立ち方など、太鼓を叩く上で大切な基本姿勢を身に付けられるように練習に取り組んできました。聴覚障害があるため、リズムに合わせて「いわもと」、「コーヒー」、「エッサカ」等、太鼓のリズムを生徒が言いやすい言葉に換えることで、リズムを覚えることができました。

2、3年生は、これまで練習で学んできたことを相互に確認し合ったり、1年生に太鼓の叩き方や姿勢についてアドバイスをしたりしました。平太鼓については、1年生に紹介したり、今後予定している地域の方との交流会で使用する予定です。



全国聾学校合奏コンクールの一次予選では、自作曲の「波音」の演奏を行いました。昨年度と同じ曲ですが、1年生6人が加わり、ダイナミックの幅を広げたり、異なるリズムを演奏したりして、昨年度よりも表現の幅を広げた演奏ができました。一次審査を通過することができた場合、二次審査で入賞することを目標に練習を重ねていく予定です。



現在は、11月の学習発表会に向けて、リズムが崩れやすいところを繰り返し練習したり、打つときのフォームを再確認したりしています。また、強弱の部分をもっとはっきりと表現できるように、適切な力加減を覚えて演奏できるようにしていきます。

また、2、3年生だけで演奏する新曲も一生懸命練習をしているところです。3年生は集大成としてこれまでの思いを大切に、2年生はこれから学校全体を引っ張っていくという気持ちを込めて、太鼓で表現できるように取り組んでいます。

